

令和5年度第1回総合教育会議・会議録（要旨）

- 1 開 会 令和6年2月27日（火曜日） 10時27分
- 2 閉 会 令和6年2月27日（火曜日） 11時41分
- 3 場 所 様子町中央公民館 小ホール
- 4 説明及び意見交換
 - 説 明 オンライン公設塾の実施状況について
 - 説 明 スクールランチ事業について
- 5 出席委員 木下副町長（代理）、秋山教育長、池田委員、櫻庭委員、南委員、能登委員
- 6 欠席委員 なし
- 7 事務局出席者 原田総務課長、秋山生涯学習課長、児玉生涯学習課参事、西嶋生涯学習課主幹、内海生涯学習課総務係
- 8 説明のため出席を求めた職員・氏名 練成会グループキョウリョク株式会社 塾長 今村明広
- 9 会議を傍聴した者 なし
- 10 議事の経過 別紙のとおり

【開 会】

- 秋山生涯学習課長 令和5年度第1回様似町総合教育会議を始めさせていただきます。始めに木下副町長からご挨拶をいただきます。

【副町長あいさつ】

- 木下副町長 令和5年度第1回総合教育会議を開催させていただきましたところ、荒木町長が昨日から公務のため不在となっておりますので、代わりに一言ご挨拶申し上げます。本日の議題のオンライン公設塾につきましては、昨年からスタートし、国語、算数・数学の2教科としておりましたが、新年度においては、英語を追加することになりました。オンライン公設塾の内容については、議題の中で説明をさせていただきます。また、2つ目の議題のスクールランチについては、令和3年9月に運用を開始して以来、アレルギー対応も実施することで、利用率が徐々に増加しており、現在小中学校合わせて94%とほぼ全員が利用している状況となっております。来年度には、児童・生徒の自己負担分を無償化するという進めております。そのほか、最終年度となったアイヌ政策交付金事業やスポーツセンターの耐震に係る方向性などまだまだ決めていかないものもありますが、教育委員の皆さま方には色々ご支援とお力添えをいただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【進 行】

- 秋山生涯学習課長 説明及び意見交換に入りますが、本総合教育会議の議長は、副町長にお願いすることになっておりますので、よろしくお願いいたします。
- 木下副町長 それではオンライン公設塾の実施状況について、練成会グループ塾長今村様にご説明をいただきます。

オンライン公設塾の実施状況について

- 今村塾長 本日はこのような機会を作っていただきありがとうございます。今年度からオンライン公設塾ということで、私たちのオンラインシステムを使いながら、様似町の子どもの学習支援をさせていただいております。今年度の実施状況や今後の取組・展望についてお話をさせていただきます。

■公教育の変化と様似町におけるオンライン公設塾の導入

大学受験の流れの変遷やスマートフォンの普及、小中学校ではGIGAスクール構想ということで、小中学生もタブレットやパソコンを普通に使うような時代になってきていると思うんです。また、色々進化する中で、生成AIをどのように使っていくのかを議論するような時代になってきています。

練成会グループは、集団指導の対面型学習塾ということでずっとやらせていただいていたんですけども、今回、様似町様から弊社のオンライン授業を使った学習サポートの

導入をしたいということで、現在、42名の児童・生徒さんが参加いただいております。

■オンライン授業コース及び安心サポートの内容

1 オンライン授業コースについて

教科毎、各学年1冊テキストがあります。教科書の内容というよりかは、單元ごとに区切られた動画を視聴し、テキストを進めていくやり方です。国語では、單元別に読み解く力の育成、物語文の読み方、説明的文章の読み方…といったイメージで、真の国語力をつけましょう、というスタンスで進めています。算数・数学では、授業の解説とともに問題演習時間が決められており、それを解きながら講師の方で回答・解説という形の授業構成になっています。また、算数・数学については、單元が終わるごとに確認テストを入れ込み、大單元が終わった毎にマスターテストということで、中学生で言えば定期テスト的な意味合いで、最終的なまとめ問題を出題しています。確認テストは四択問題で、全問正解するとゴールドクラウンがもらえるといったゲーム感覚で挑戦できる内容になっています。間違えた問題については、最後の段階で解きなおしをすることができますので、すぐ解きなおしても、時間をおいて解きなおしても大丈夫のように誘導をしています。また、中学3年生については、3月に「高校進学準備講座」というものを配信しており、プリント集とあわせて高1単元の最初の部分を確認することができるようになっております。

2 安心サポートについて

授業動画視聴とあわせて確認テスト機能、学習履歴の確認ができます。また、LINEのようなメッセージチャット機能、ビデオ通話機能、カメラ機能も搭載されており、弊社開発のオリジナルアプリ「マナビー」をとおして利用することができます。カメラ機能では、分からない問題の写真を撮って講師に送信することで、解説を文字で返すということも行っています。

面談は、札幌にある弊社のオンライン本部から、北大の学生講師が中心となって、面談を実施しています。一か月に1～2回を目途に実施しており、中学生になると授業の質問の他に進路の相談や学生講師の大学生活について質問があったりします。

■オンラインのメリット・デメリット

1 メリット

動画の視聴については、自分の学年の前後1学年分の動画を視聴することができます。また、視聴方法について、倍速、一時停止等自分のペースに合わせて使うことができます。自分の都合に合わせて分かっている部分は飛ばすこともできます。必ず全部受けるということが全てではないので、自分の理解度にあわせて学習を効率よく進めることができます。算数・数学の演習問題の時間には必ずタイムカウントが出るので、自分のペースが速い・遅いの確認も可能です。

2 デメリット

当然、始めるのは生徒さんが主体的に始めなければ始まらないという点があります。

大人でもあることですが、動画視聴型なので、YouTubeを観るようにぼーっと流し見してしまう可能性もあります。

メリット・デメリットを理解したうえで、しっかり使いこなすことが集中力や計画力、管理能力等とともに、子ども達に育んでもらいたい自立の力、自ら決めたことを自ら行うということを、オンライン公設塾を利用するにあたって目標にしてほしいと考えています。

■オンライン公設塾以外での関わり

チャレンジ学習へお邪魔することで、生徒さんたちと関わりをもたせていただき、参加している生徒への声掛けや進路の話等をすることができました。また、昨年10月30日には第2回学校運営協議会のなかで学校関係者の方々も含めて様々意見交換をさせていただき、12月21日には様似中学校で教育講演会ということで生徒さん全員に「これから求められる力」ということで、お伝えさせていただきました。その後、地域連携研修ということで、小中学校の先生とご一緒させていただきました、夜には第3回学校運営協議会・町民熟議ということで色々な話を共有できたということもありました。

■今後の展望

来年度子どもたちの主体的かつ計画的、効果的な受講促進ということで関わらせていただきたいと思っています。目標や目的を持った学習施設の育成ということで、なんのために勉強しているのかということを考えるような機会のサポートをさせていただきます。様似町さんのこういった取り組みは、大変素晴らしいことだと思いますので、今後の児童・生徒さんだけでなく保護者や地域の方への周知も徹底していきたいと考えています。

【進 行】

- 木下副町長 今村さん、ありがとうございました。オンライン公設塾について、何か質問等ございましたらお願いいたします。

【質 疑】

- 南教育委員 中学3年生の3月に「高校準備講座」があるのはとてもいいと思います。中3以外にも、小6が中学生の講座を観たり、出来たりとかできるようになっているのでしょうか。

【説 明】

- 今村塾長 基本的には現学年のテキストを使って現学年分の授業が配信されているので、3月いっぱいにはテキストの収録内容を勉強してもらうことになっています。ただ、学年ごとに最後に「〇年生のまとめ」という講座があるので、その講座をやってもらい、最後の安心サポートでアドバイスをしようというふうに考えています。自分の学年の前後1年分の動画は視聴することは現状可能です。

【質 疑】

- 櫻庭教育委員** 様似町の学習の課題として、家庭学習の時間が少ないということが挙げられると思います。家庭学習時間の少なさについては、保護者の意識も必要だと思っているんですが、この保護者と地域の皆さんへの周知というのは、具体的にどのようなことをかかんがえているのでしょうか。

【説 明】

- 今村塾長** 私も今回こういったことを始めるにあたって、周知徹底というのは必要だと思いました。昨年5月のスタート時に説明会ということで生徒さんと極力保護者の方に集まっていたんですけども、それでも皆さん事情があつたりで全員ではなかったもので、新年度については、そのあたりの工夫をさせていただきたいと思っています。また、オンライン面談には保護者の方にも参加していただき、保護者面談のような形を作りたいと考え、構想中です。

【質 疑】

- 木下副町長** 私の方からも聞きたいんですが、オンライン視聴動画について、単元と講座が35個とかありましたけれども、1単元あたり何時間とかになってしまうのでしょうか。

【説 明】

- 今村塾長** そんなには長くないです。生徒さんの集中力にもよるので、国語でも例えば10分の演習を入れても30分以内で終わるようになっていきます。算数・数学ですと、10分から短いものと10分以内のものもあります。動画をご覧ください。【実際の算数の動画を視聴】

【質 疑】

- 能登教育委員** 今、動画を観せてもらって、子ども達には大変分かりやすいと思いました。これを学校の授業で使用するということは、考えていますか。また、個人の教員のサポートとしても活用できるかと思うのですが。

【説 明】

- 今村塾長** 学校の授業で実際に使っていただけるのであれば、将来的にはそういうこともアリなのかなと思っています。実際のケースで言えば、産休代替の先生が見つからず、教科書単元が終わった中3生の授業をオンライン動画を使用してもらっているとかがそういった事例も出てまいりました。ですから、これからはかしたらそういうような時代も来るかと思しますので、そういったケースもあるのかなとは思っています。

また、学校ごとに体験用のアカウントを発行させていただくこともあります。「ちょっと参考に見せてもらいたいんですけど」という話もあるので、うちの授業が優れているからどうかではなく、参考にしてもらえたらありがたいことだと思います。

【質 疑】

- 池田委員** 学年別の平均受講率について、特に中3が各学年よりも低い受講率ということですが、今村さんが考えるに何か原因ってございますか。

【説 明】

○**今村塾長** 学校で勉強するというのが基本であれば、学校での理解が深まれば正直受けないという生徒さんが出てきているのも現状です。正直なところ、3年生の出だしがなかなかエンジンがかかりにくい状況でした。そうそうに進路を決めている生徒さんの受講が進まなかったり、今までの勉強環境の中にポンと3年生になって我々が入ってきたものですから、なかなか順応できなかった生徒さんもいたというのが私たちの対応の中でも反省点になります。受講が進んでいないなかでも、面談だけは定期的に参加していただいて、学校や高校の話をしたり、といった部分はあります。今の中2生が中3生にあがるにあたって、だいぶペースを掴んだ生徒さんが進級しますので、しっかり3年生のサポートをしていきたいと考えています。

【進 行】

○**木下副町長** ありがとうございます。他にご意見等はございますか。

【説 明】

○**秋山課長** 私の方から、新年度のお話をさせていただきたいと思います。令和6年度から、現在の2教科から英語を加えて3教科にしたいということで予定しております。これは、昨年10月くらいに行いました利用者アンケートにおいても、保護者の方の希望としては英語を追加してほしいという要望が多かったこともありますし、学力調査の結果をみても、英語の中の領域別の特徴として、特に文法を含めた読み書きが弱いがために全体としてふるわないという状況がございますので、今回英語をオンライン公設塾に取り込むことで、改善できるのではないかと期待しております。

【進 行】

○**木下副町長** ありがとうございます。それでは2件目になります。スクールランチ事業について、内容につきましては秋山生涯学習課長から説明させていただきます。

【説 明】

スクールランチ事業について

○**秋山課長**

■スクールランチ事業のこれまで経過

スクールランチ事業についてです。資料11ページです。初めにこれまでの事業の経過についてご説明します。令和3年9月に運用を開始し、10月、11月に実施の状況についてアンケート調査を行っております。ここでの意見を踏まえて、運用の見直し等を図るとともに、ランチを輸送する食缶等機材についても改良したことで、令和4年4月からは汁物メニューを追加することが可能になりました。令和4年9月には、利用者が注文するシステムを改良版に更新し、これは利用者の使い勝手の向上もありますが、アレルギー対応のために必要な機能が追加されたものであります。12月からは、あらかじめアレルギー情報を登録しておけば、その利用者のアレルギー源となる食品が含まれる献立の場合、別のメニューが提供されるようになっております。その後、今年1月にも利用者アンケートを行いまして、その結果につきましては先にご報告させていただいたところであります。

■利用率の状況について

その月のランチ利用者の在籍者総数に対する割合の推移を見ると全体としては徐々に増加しており、令和5年12月時点では、小学校95.7%、中学校90.7%、通算では94%という数字になっております。

■事業費の状況について

1 利用料金の1食当たりの自己負担額と補助の状況

児童・生徒 自己負担額200円/1食 教職員 自己負担額310円/1食 です。
町からは、自己負担とほぼ同じ額を補助しています。

2 配送・管理経費とアレルギー対応管理費

配送・管理費については、令和5年度、来年度も変わらない見込みです。アレルギー対応管理費も同様の見込みで、対象児童生徒1食当たり特定28品目、28品目以外でそれぞれ価格が設定されています。

3 年間経費

町が負担する分の合計ですが、12月までの実績を元に算定した今年度の執行見込み額は、1,623万円の見込みとなります。

■無償化の実施について

現在、1食200円を保護者に負担していただいておりますけれども、子育て世帯へ支援等を目的として学校給食を無償化する市町村が増えていることや利用者アンケートでも更なる負担軽減を求める意見があったところです。これまで、議会等の場でもアレルギー対応が可能となり、利用率が100%に近くなった場合に、無償化実施を検討することとなっておりました。現在、アレルギー対応も可能となり、利用率も徐々に伸びているうえ、先月のアンケート結果においても無償化することによりほぼ全員が毎日利用する期待が高いことから令和6年度から児童・生徒の自己負担分を無償化する方向で進めたいと考えております。

■無償化した場合の影響額について

令和5年度の執行見込み額に児童生徒の負担分をはめて計算し、最大で年間経費は2,547万円となり、今年度より923万7千円経費増という試算になっております。

■スクールランチ事業に係る関連事業について

1 スクールランチへの様似産米の使用について

ランチで出されるご飯について、コープが調達する一般道産米が通常使われておりますが、町内でも米が生産されておりますので、出来るだけ地元食材を使いたいということで、かねてより調整しておりました。しかし、町内では一般米の生産はなく特別栽培米という

ことで、価格面で合わないという状況がありました。その後、令和5年度収穫分から一般道産米と様似産米の価格差分を、町の農業振興事業補助金で補填することにより、コープで様似産米が実際に使用されております。この取り組みについては、今後継続したいと考えております。価格差については、令和5年の価格では10kgあたり1,145円、年間使用見込み量からすると町からの補助には年間30万円弱必要になるという計算になります。

2 幼児センターでの米飯の提供

幼児センターではこれまでも給食自体は無償で行ってございましたけれども、3歳から5歳については、おかずのみの補食給食でしたので、ご飯については各家庭から持参してもらってございました。令和6年度からスクールランチが無償化されるのであれば、合わせて幼児センターの方も給食はご飯を含めて全部提供する完全給食へ切り替えてバランスをとりたいと思っております。なお、その場合に使用する米は、様似産米を使うこととして考えております。これを行うことにより、別途炊飯器や食器等が必要にはなりますが、食材費ということで考えますと、下段記載のように年間25万7千円程度の経費増になりますが、幼児センターにおいても温かいご飯を提供できるということになります。

【進 行】

- 木下副町長 スクールランチ事業になりますが、来年度から無償化に取り組むということであります。そこで合わせまして幼児センターの方でも、米飯の提供については幼児センターで用意して、幼稚園から小・中学校ととおして子育て支援ということで進めたいと思います。実質スクールランチを始めて1年程経ちますが、そのなかで評判とか改善してほしいといった点がございましたら、ご意見いただければなと思います。

【質 疑】

- 能登委員 感想になりますが、スクールランチでいいなと思うところは自分の家の食卓に出ないメニューが出てきた食べられたりするところだと思います。そういうのは、子どもたちにとって新鮮な経験になって、食に意欲がわいたり、興味を持ったりすることがあるので、スクールランチは大変いいきっかけだと思います。今後ともよろしく願いいたします。無償化はとってもありがたいです。
- 池田委員 近隣各町、えりも町や浦河町も給食センターでの動きになっていると思うんですが、スクールランチに移行するという声は聞こえてはこないのでしょうか。

【説 明】

- 秋山教育長 スクールランチの他町の状況ということですが、浦河町は給食センターがありますが、建て替えということで検討されているということは聞いています。検討の段階ではスクールランチの関係も含めた中で、色々な方法を考えられているということで聞いています。えりも町は、ミルク給食をやられていたのが庶野の小学校でした。去年の4月からえりも小学校の方で給食を作ったものを庶野へ運ぶという取り組みをされておしま

す。えりもは自校式あるいは親子方式というところの中で給食が進んでいて、今すぐにはスクールランチということにはならないということで話を聞き及んでいるところです。

【質 疑】

- 池田委員 現在、自己負担額が200円ですが、この自己負担金の徴収という現状ではスムーズにすんでいるのかどうか、教えてください。

【説 明】

- 秋山課長 こちらは町の方でお金を扱うわけではなく、各保護者にコープの注文システムを入れてもらって注文しています。それと同時に料金決済の方法もクレジットや口座振替等同時に登録していただいております。それで、何か手違いがあって何か月か入らないということも年に1、2回はこちらの方に情報はありますけれども、ほぼそういったトラブルはなく現在まで経過している状況です。

【質 疑】

- 櫻庭委員 近隣の町もスクールランチに移行したら1食あたりの単価も下がってくるとは思いますが、今現在の物価高で今後スクールランチの単価が高くなった場合は、無償化を見直したりするのかどうかを聞きたいと思います。

【説 明】

- 秋山課長 当初、令和3年度開始したときからすでに一度値上げされています。理由としては、物価高、燃料高、人件費も上がったということが要因です。令和6年度は据え置きの単価でやっていただける見込みで進んでおりますけれども、この先、物価高の部分については、読み切れないところもありますが、国の子育て支援の関係もありますし、一般の学校給食で自己負担を増やさないということで色々補填している経緯もございます。基本的には無償化したうえで、町負担の方はその分増える可能性がありますけれども、子育て世帯を支援するというで無償化を解消するというのを考えることにはならないんじゃないかなと思っております。

【進 行】

- 木下副町長 色々な状況で考えることもあるかもしれませんが、子ども達の数が減ってくるということも将来的な見通しがあって、スクールランチだけでなんとか出来なくなったから老人ホームで配食を出したりといったところで提案していけばニーズが広がっていることもあるのかなと見ているところであります。どういった将来になるかは分かりませんが、教育や福祉の分野の中で反映できれば、と考えております。

【質 疑】

- 南委員 喫食率94%ということで、あと6%が何人か分かりませんが、喫食率100%を目指す中で、アレルギー対応もして無償化になるということで、あと食べないという選択をする理由は何なのかなと思いました。個別対応等で100%を目指す予定はあります

か。

【説明】

- 秋山課長 先般のアンケート結果においても、主な要因は料金がかかるというところが大きいのかなど。無償化になったら毎日利用したいという声が大半でありました。もしかして、アレルギーが心配で「やっぱり利用できないかも」というケースもあろうかと思いますが、そこらへんは対応が今できますよ、という個別の対応も現在であれば可能かなと考えております。

【質疑】

- 木下副町長 帯広から毎日配送されていて、量が余るということはないんですか。学年によつてはあると思うんですけども。

【説明】

- 秋山課長 アンケート結果やコープの残食のデータも定期的に仕入れています。人気メニューの時は、残食は少ないし、量が足りないということも書かれていたアンケート意見もありました。あまり好まないようなものであれば、現在は保護者の方で頼む・頼まないも選べます。日によって細かく利用率の出る食数というのも変動がありますが、無償化されたあとは個々の頼む・頼まないという操作も必要なくなりますので、基本的には全員分の食事を用意することになります。それぞれ残食の関係については、出さないようにするのも学校の食育指導の一環と思われまますので、そういう点で対応が必要になってくると思われます。

【質疑】

- 能登委員 フードロスの観点から、廃棄になってしまうのは大変もったいないと思います。そこで、投げるんじゃなくて例えば一か所にまとめて肥料化するとか。そして十勝の農家に戻すというような感じの循環のようなことをしたら、どうでしょうか。「投げるんじゃなくて肥料にするんだよ」という意識にもっていけば、「残さないで食べるんだよ」という強いプレッシャーがなくなって、自分だけ残しても残った分は肥料になって再利用されるんだよというシステムを作れば、自分の適量を食えることができると思います。

【説明】

- 秋山課長 現在、残食の処理も含めてコープの方で引き受けてやっています。午前中に届けて昼食べて、残ったものを1時過ぎくらいに回収して帯広に持って帰っているのですが、その持って帰った残渣の部分は帯広工場内に専用の処理施設があり、その中ですべて処理されているということです。再利用されているかはきいておりませんが、コープの都合もあります。そういうこともできればいいのかなと思います。そこらへん、情報収集したいと思います。

【質疑】

○池田委員 小学校にしても中学校にしても、当初建設にあたってこういったスクールランチというようなものを想定して建築したわけではないと思います。現状、この事業を始めて「施設のこれがあつた方がいい、追加したい」というようなものは考えられますか。

【説明】

○秋山課長 現状、毎日配送車両についてコープの方で用意して、中に搭載している保管用の冷蔵庫等もコープの方で用意している状況でございます。現在、学校の方へ届けてもらって、機材ごと学校へ運び入れている状況で対応できているので、特段追加で設備が必要だということは学校ではないという状況でございます。

○秋山教育長 フードロスの関係だったんですけれども、SDGsの部分でもフードロスについてはコープさんが取り組んでいることもございますので、出来るだけゴミを出さないというようなことで、帯広工場のほうでも、水分は水分でしっかりと出して、残渣の部分については残渣の部分で肥料に回すような形をとっていたような記憶がありますので確認したいと思います。あと、小中学校の設備に関してですが、小学校は裏の体育館の方から車が入ってきまして、配膳室という部屋を設けているところにすべてコンテナが入ってきます。そこからそれぞれの学年の方にもっていくということでやっていますし、エレベーターを利用しながら2階へコンテナを運んでいます。中学校の方については、元々、様似高校があつた時の事務室が、職員玄関入ってすぐ左手のところにございまして、そこが現在配膳室ということにしております。そこにコンテナを運び入れまして、それで2階、3階の方にはエレベーターを使いながらあげているということで、スロープ等も元々小中学校にありますので、問題なく使えているということでございます。

【進行】

○木下副町長 よろしいですか。それでは、2件目のスクールランチ事業につきまして、引き続きよろしくお願ひいたします。以上で、予定していた案件は以上になりますが、その他として皆様方からなにかご意見等ございましたらお願ひしたいと思いますが、いかがでしょうか。何もなければ、本日の議題、すべて終わらせていただきます。これで、本日の会議は終了とさせていただきます。本日は、まことにありがとうございました。